地域連携推進会議　議事録

令和 8 年度　グループホーム パキラ

開催日時	令和 8 年 9 月 18 日（　金　） 13 時　00 分〜　15 時　00 分	**開催場所**	グループホーム パキラ（クヌギ）
参席者	管理者 1 名・サービス管理責任者 1 名・生活支援員 1 名・入居者代表 1 名・入居者家族 1 名・地域住民代表 1 名	**欠席者**	
議長／記録	サービス管理責任/生活支援員	**配布資料**	①会議資料 ②日々の支援と活動 ③ヒヤリハット・事故対応事例

1. 開会・会議の目的

地域連携推進会議として、グループホーム　の日々の支援内容や運営状況、安全対策、地域との関わりについて説明し、ご家族・地域の皆さま・関係機関から意見をいただき、今後の運営と支援の質の向上につなげることを目的に開催した。

2. 事業所の概要と日々の支援について

事業所は共同生活援助（ワンルーム型）で、定員は 7 名。入居者一人ひとりのプライバシーと生活ペースを尊重し、「本人ができること」を大切にしながら、必要な場面で支援を行っていることを説明した。

主な支援内容として、朝・夕の食事提供、配膳時等のヒアリング、体調や生活リズムの確認、服薬支援、金銭管理の補助、買物・掃除・洗濯・通院等の支援、日々の相談対応を共有した。入居者の表情・食事・睡眠・精神状態など、普段との違いに気づき、必要に応じて職員間や医療機関・訪問看護等と情報共有することを確認した。

声掛けは一方的な指示にならないよう、本人の気持ちや希望を確認し、短く分かりやすい言葉で伝えることを大切にしている。できる部分は見守り、難しい部分を必要に応じて支える方針を説明した。

3. 地域との交流・日々の活動について

地域とのつながりを広げる取り組みとして、B 型作業所など関係する皆さまと、豆つみやプロレス鑑賞等の活動・交流の機会を持っていることを紹介した。また、買物・外出支援、掃除・洗濯支援、避難訓練などの写真資料を用いて、日常生活の支援と地域での経験を積み重ねる取り組みを説明した。

活動への参加は本人の希望・体力・その日の状態に配慮し、無理のない範囲で行う。小さな経験を重ねることで自信につなげ、地域の中で自分らしく暮らせるよう支援していく。

4. 安心・安全への取り組み

災害時の備えとして、安否確認、避難誘導、必要な支援や物資の確認、情報共有、地域との協力体制について説明した。避難訓練では実際の道を歩いて避難経路や危険箇所を確認し、緊急時に落ち着いて行動できるよう備えている。BCP（事業継続計画）についても、安否確認・避難・備蓄・連絡方法等を定期的に確認していく方針を共有した。

権利擁護については、虐待防止・身体拘束の適正化・職員研修を継続し、本人の意思や気持ちを尊重した支援を行うことを確認した。苦情・相談については、まず話を聴き、事実確認を行い、改善につなげるとともに、必要に応じて外部の相談窓口も利用できることを説明した。

5. ヒヤリハット・事故対応事例の共有

①体調変化（眼球上転）に伴う救急要請：入居者に眼球上転がみられ、通常の状態に戻らなかったため、職員が状態を観察し、意識・呼吸等を確認したうえで救急要請を行った。救急隊到着後に経過を説明し、処置・状態確認の結果、状態が安定し、救急搬送せずホームへ戻ることができた。

②外出中の転倒・救急搬送：ご家族との外出中に転倒し、医療機関へ搬送された事例について共有した。ホームはご家族からの連絡を受けて搬送先を確認し、職員が病院へ駆け付けるとともに、入院に必要な着替え等を準備し、ご家族・医療機関・ホーム間で情報共有を行った。

これらの事例を通して、普段の様子を把握すること、小さな変化を見逃さないこと、異変時に職員間で速やかに共有すること、必要に応じてご家族・医療機関・救急機関と連携することを再確認した。事故やヒヤリハットは発生時の対応だけで終わらせず、原因や予防策を振り返り、今後の支援に活かしていく。

6. 確認事項・今後の取り組み

・入居者の体調や生活上の変化を継続して確認し、必要な情報を職員間・関係機関と共有する。

・避難訓練や BCP の確認を継続し、緊急時に迅速に対応できる体制を整える。

・ヒヤリハット・事故対応を職員間で振り返り、再発防止と支援の改善につなげる。

・地域や関係機関との交流を継続し、入居者が地域の中で安心して暮らせる機会を増やす。

・ご家族・地域の皆さまから寄せられた意見や提案は、内容を確認し、今後の運営・支援に活かす。

7. 閉会

以上の内容を共有し、今後もご家族・地域の皆さま・関係機関との連携を大切にしながら、安心・安全で本人らしい暮らしを支えていくことを確認して閉会した。